

公開研究会

災害と厄災の記憶は伝えられるか

——教育学と哲学の間で考える——

趣旨：この公開研究会では、『災害と厄災の記憶を伝える—教育学は何ができるか』（勁草書房、2017年1月）の内容や論集出版までの道のりで考えたことを執筆者自らが紹介し、参加者とともに災害と厄災の記憶を伝えることをめぐる教育の可能性について討論します。

参加費なし

事前予約不要

日時 **2017年3月26日**（日）
14:00-17:30

場所 **同志社大学**（今出川校地・
烏丸キャンパス）志高館1F「SK会議室」

（※同館の正面左手の入口から入り、廊下の一番奥です）

（京都市上京区烏丸通上立売上がる）

アクセス：地下鉄烏丸線「今出川駅」下車、烏丸通を北上（徒歩で約5-10分）



プログラム

13:40- 受付

14:00-14:10 開会の挨拶 矢野智司

14:10-14:30 『災害と厄災の記憶を伝える』の基本コンセプト 山名 淳

14:30-15:00 〈非在のエチカ〉の生起する場所——水俣病の記憶誌のために 小野文生 同志社大学

15:00-15:30 広島のアンドース——哲学者の隠れた文化的記憶論と〈不安の子ども〉 山名 淳 京都大学

15:30-15:50 休憩

15:50-16:20 厄災ミュージアムの建築プラン

——記憶し物語り伝達し公共的に活動する場を目指して 矢野智司 京都大学

16:20-16:40 指定コメント 渡名喜庸哲 慶應義塾大学

16:40-17:20 ディスカッション

17:20-17:30 閉会の挨拶 山名 淳

18:00- 懇親会

公開研究会終了後、同志社大学構内・寒梅館1Fのレストラン「アマーク・ド・パラディ」で懇親会の開催を予定しております。ご参加ください。

司会 岡部美香 大阪大学



災害と厄災の記憶を伝承するという課題に対して、教育／教育学は何をなすのか。「厄災」をどのように語るのか、語ること自体の意味や記憶の在り方そのものについて思想的にアプローチすることにより、災害の存在／伝承可能性を探る。

問い合わせ先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学教育学研究科 山名淳研究室
メールアドレス jun.yamana.6s@kyoto-u.ac.jp

本公開研究会は、基盤研究（C）平成27-29年度 課題番号15K04226「学習アーキテクチャとしての「記憶空間」の形成原理および問題改善の研究」の一環として企画・運営されております。